第 1 回厚木市教育振興基本計画審議会計画策定部会の 振り返りと確認事項について

- 1 **資料 1** 3 策定に当たって考慮すべき視点
「(1) ウェルビーイングの充実」の文中に「笑顔」が出てくるが、笑顔が自分らしさではない子どもたちもいる。「安心」という言葉が方向性として合致している。
⇒基本理念等を設定する上で表現を検討
- 2 市の学習施設として、図書館やアミューがあるが不足している。
⇒生涯学習施設の充実を検討（市生涯学習課と共有）
- 3 保護者を対象に家庭教育講座を実施しているが、参加者数が集まらない現状がある。また、働いていて時間がない保護者の方々へのアプローチ方法について検討する必要がある。
⇒対応策を検討（市市民協働推進課と共有）
- 4 先生や保護者以外の様々な大人と関わることができるような居場所づくりが必要ではないか。
⇒家庭や学校以外の身近な場として、地域との交流の充実に向け検討（市市民協働推進課と共有）
- 5 学校や保護者の方々は、こどもに対して手厚く世話をしすぎている部分がある。基本目標「挑戦」のように、学びに向かう気持ちや一人一人の役割をいかしていくことができるようにするべきではないか。
⇒大人はこどもたちを見守りながら、こどもたち自身が自主性を持ち行動できることが望ましい。各課等の取組において検討。（市・教育委員会全体で共有）
- 6 発達障害などで子育てに難しさを感じている保護者がいる。一方、障がいに対する社会の理解が深まったことから、通常学級で対応できるだろうこどもの特別支援学級入学を希望する保護者がいる。
⇒特別支援学級の在り方、障がいの捉え方の検討（教育委員会教育指導課と共有）
- 7 公園よりゲームで遊ぶこどもたちが増えていること、こどもの安全に配慮する保護者が増えていることから、運動能力低下がみられる。改善に向け、どのように取り組んでいくのか考える必要がある。
⇒対応策を検討（市スポーツ魅力創造課と共有）